

## 松阪市立第五小学校 国際教室での教科学習の取組

### 「JSLカリキュラム」の授業づくり 国際教室での取り出し指導 2年生「かけ算」

#### ①概要

対象	学年	2年生
	経験知識	<p>A児</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1 から 100 までの数を唱えることができる。</li> <li>・ たし算、ひき算の筆算の仕方はある程度理解している。計算問題では、繰り下がりが生じる時に誤答が見られる。繰り上がりについては理解できている。たし算、ひき算は指を使って計算することが多い。</li> </ul>
	日本語力	<p>A児</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ あいさつができ、具体的な指示ならそれに従って行動できる。</li> <li>・ 間違いもあるが、何とか平仮名の読み書きができる。</li> </ul>
目標	算数科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 乗法の意味を理解する。</li> </ul>
	日本語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○乗法の式では「1つ分の大きさ」を表す数字をはじめに、そして「いくつ分」を表す数を次に書くことを理解する。</li> <li>●「しきに書きましょう」などの指示の表現に慣れる。</li> <li>●おはじきを並べる活動を通して、場面を想像し「<math>A \times B</math>」といった乗法の式を日本語で表現する。</li> <li>●「～ずつ」、「いくつ分」、「かけ算」、「かける(<math>\times</math>)」、「AかけるBはC」などの乗法に関する言葉や表現に慣れる。</li> </ul>
主な活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>*おはじきを並べる活動を通して、「1つ分の大きさ」、「いくつ分」を表す数を見つける。</li> <li>*絵や図が示していることを、乗法の式にして表す。</li> </ul>	

○は理解、●は表現を目標とする。

## ②活動の進め方（全5時間）

◇：活動の参加をうながす支援 ◆：日本語の理解や表現をうながす支援

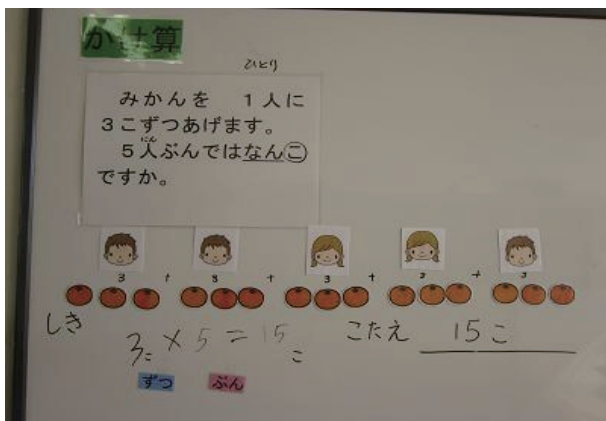
児童の活動と支援	中心となるやり取り
<p>(1時間)</p> <p>1 「～ずつ」の意味を理解する。</p> <p>* 具体物を使って「～ずつ」、「いくつ分」の意味を理解する。</p> <p>◆ 同じ数ずつみかんが皿にのっている状況を丁寧に示すようにして「～ずつ」というようにする。また、皿の上にみかんがいくつかのっている状況が「～ずつ」ではないことを確認するため、皿の上のみかんの数が皿ごとに違う状態を示して「3個ずつではありません。」などと確認させる。</p> <p>◇ 「いくつ分」は1単位の物がいくつあるかであるため、ほかの助数詞にもつけることができることを絵カードを用いて練習させる。</p> <p>◇ 文から式を作ることが第一の目的である。掲示物を頻繁に替えると助数詞に気を取られてしまう可能性があるため、慣れるまでは掲示物は替えずに数のみを替え、文から式をつくる練習を繰り返し行わせる。</p>	<p>中心となるやり取り</p> <p>T：これは何ですか。 S：みかんです。 T：みかんは何個ありますか。(皿に3個のみかんをのせる。) S：3個あります。 T：皿の上に・・・みかんが4個ずつあります。(4枚の皿の上にみかんを4個ずつのせる設定にして行う。) S：4個ずつあります。(と繰り返し発音する。)</p> <p>T：皿にみかんが5個ずつあります。何皿分ありますか。(皿にみかんが5個ずつ3皿ある様子を示す) S：3皿分です。 T：皿にみかんが5個ずつあります。3皿分あります。 T：全部でいくつありますか。 S：全部で15個あります。 T：どのように数えましたか。 S：1、2、3、4、5・・・15です。 T：同じ数ずつお皿にあります。 5 + 5 + 5 = 15です。15個あります。</p>

<p>2 かけ算の立式と、「×」、「かけ算」の用語を理解する。</p> <p>◆「×」の記号とその筆順も同時に指導する。</p>	<p>T: ご かける さん は じゅうご と読みます。 言ってください。</p> <p>S: ご かける さん は じゅうご。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>5こ × 3さら = 15こ        ずつ の ぶん ぜんぶで こ</p> </div> <p>T: 5×3のような計算をかけ算と言います。        (AU: F-6 「新しい言い方を知る」)</p> <p>S: かけ算</p> <p>T: かけるを記号でこう (×) 書きます。        (AU: F-8 「記号を知る」)</p>
<p>(2時間)</p> <p>* 「～のいくつ分」の意味を理解し、かけ算の式に表す。</p> <p>* 「式の読み方」、「式の書き方」に慣れる。</p>	<p>(消しゴムの絵カードを示し、)</p> <p>T: これは何ですか。</p> <p>S: 消しゴムです。</p> <p>T: 1人2個ずつです。教室に何人いますか。</p> <p>S: 3人います。</p> <p>T: ○○さんに、2個あげます。2個の1人分は、1、2。2個です。</p> <p>T: ○△くんにも、2個あげます。</p> <p>T: 2個の2人分は、1、2、3、4。4個です。</p> <p>T: △△くんにもあげます。</p> <p>T: 2個の3人分は、1、2、3、4、5、6。6個です。(再度繰り返して言う。)</p> <p>T: 2個の1人分は、2個です。</p> <p>T: 2個の2人分は、4個です。</p> <p>T: 2個の3人分は、6個です。</p> <p>T: 2個の・・・        2</p> <p>T: 1人分は・・・        2×1</p>

<p>◇はじめに「1つ分の大きさ」を表す数を、次に「いくつ分」にあたる数を書き、最後に「全部の大きさ」を表す数を書かせる。</p> <p>◆数字や物に変化を加えて数回繰り返し練習させる。</p> <p>◇ワークシートで練習させる。</p>	<p>T : 2個の1人分は2個です。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>2こ × 1人 = 2こ          ずつ の ぶん ぜんぶで こ</p> </div> <p>に かける いち は に と読みます。          T : 2 × 1のような計算を何と言いましたか。          S : かけ算です。          T : 2個の2人分は4個です。かけ算の式に表しましょう。          (AU : K-5 「わかったことを表現する」)</p> <p>S : 2 × 2 = 4です。</p>
<p>(2時間)</p> <p>3 問題文を読んで題意を捉える。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>みかんを ひとりに 3こずつ あげます。5人分 では <u>なんこ</u> いらいますか。</p> </div> <p>◆板書やワークシートで問題文を提示する。</p> <p>*ブロック等の具体物や半具体物を使って、問題文の表す内容を実際に操作して、題意を把握する。</p> <p>*立式し計算する。答え方(助数詞の使い方)には注意する。</p>	<p>T : みかんを 1人に 3個ずつあげます。          (人間の絵カードの下に、みかんの絵カードを3枚貼っていく。)</p> <p>T : 5人分では・・・          (人間の絵カードを5枚に増やす。みかんの絵カードを増やしながら、貼っていくようにする。)</p> <p>T : 3個ずつの5人分です。式を書きましょう。          S : 3 × 5 = 15</p>

<p>◆かける数とかけられる数を入れ替えて立式してしまわないように「なん」に下線を引き、その後ろにある助数詞に着目させる。</p>	<p>T：何個 いきますか。  <math>3 \times 5 = 15</math>          こ 人分 こ</p>
<p>◆単位が必ずかけられる数に合うようになることを知らせる。</p>	<p>T：何個、3個 3個×5人分 です。          こたえは15個です。こたえ15個          言ってみましょう。</p>
<p>◇ワークシートで問題文を練習させる。</p>	<p>S：こたえ15個</p>
<p>◇立式→ブロック操作→答えを記入という手順で繰り返し、「～のいくつ分」の意味を理解させる。</p>	<p>T：練習しましょう。          T：どのようにしたか説明しましょう。          (AU：K-8「したことを表現する」)          S：□の△分は○になります。</p>

【教材・教具】 ワークシート、磁石、チャート、絵カード



## 松阪市立第五小学校 在籍学級における教科学習の取組

### 「JSLカリキュラム」の授業づくり 在籍学級での取り出し指導 2年生「かけ算」

①単元名（学年）：「かけ算」（第2学年） 在籍学級での一斉授業

#### ②対象

児童A

- 出身国・母語 フィリピン・ビサイア語
- 在日期間 1年6か月
- 就学年月（本校就学年月） 1年3か月
- 子どもの現在の学習する力（レディネス）

〈日本語の力〉

昨年6月、フィリピンより来日した時は、全く日本語が話せなかったもので、いっぽ教室に通い、平仮名と片仮名を学習した。いっぽ教室修了後は、1年生教室での学習と合わせて、校内の国際教室に通級した。自分の気持ちを日本語で表現できるようになり、友だちともなかよく遊べるようになった。

2年生に進級し、今年度は国語科・算数科の時間を合わせて週7時間取り出し、国際教室で学習している。

#### ・「聞く・話す」力

生活面での日本語はある程度できるが、学習内容は補助が必要である。指示されたことを聞いて活動することができる。自分の気持ちを簡単な日本語の文章で話すことができる。一斉授業の中で発表することは難しい。

#### ・「読む・書く」力

平仮名で書かれた文章であれば、拾い読みができる。言葉のまとまりとして読むことは難しい。数字などの簡単な漢字を読むことができる。文章の内容が理解しにくいところがある。

平仮名、片仮名を書くことができる。聞き取った言葉を書くことができるが、撥音、拗音、促音は正しく書くことが難しい。

〈教科の知識・スキル〉

1から100までの数を数えて書くことができる。たし算、ひき算は指を使って計算することが多い。2年生の算数科教材「大きな数」から、国際教室でも授業形式を取り入れた学習を行っている。同じ学年の男児(今年5月中旬より本校在籍)と同じ内容を学習した時は、来日して間もない男児に母語で通訳をしたり、簡単な日本語で説明したりしていた。

### ③在籍学級での単元計画（全7時間）

国際教室で5時間の取り出し指導を行いながら、在籍学級で2時間の学習を行う。



- ・「1つ分の大きさ」、「いくつ分」をとらえられるようになる。 - - - - - 2時間
- ・乗法の意味を理解する。 - - - - - 2時間（1/2本時）
- ・乗法の意味の理解を確実にする。 - - - - - 1時間
- ・乗法の答えは被乗数を乗数の数だけ累加して求められることを理解する。  
- - - - - 1時間
- ・乗法の場面としてとらえることができる場面が、身の回りに多くあることを知るとともに、乗法の意味の理解を確実にする。 - - - - - 1時間

### ④本時の計画（3／7）

#### ○目標

- ・教科の目標：半具体物を用いた操作に関心をもち、「～のいくつ分」の操作を通して乗法の意味を理解し、式に表すことができる。
- ・日本語の目標：「～ずつ」、「～のいくつ分」など乗法の問題文に使われている表現を理解する。  
「かける（×）」、「かけ算」、「AかけるBはC」など、乗法を学習する時に必要な表現を理解する。

#### ○授業展開

展開	学習活動	主なやり取り	支援
導入	1 前時の復習をする。  2 題意をとらえる。 	T：昨日の勉強を覚えていますか。 「～ずついくつ分」の勉強をしました。 （AU：A－3「経験・体験に基づいて知識を確認する」）  T：この絵を見ましょう。観覧車に乗っている人数を調べましょう。 S：観覧車には、1台に3人ずつ4台分で12人です。	・「ずつ」、「ぶん」のチャートを掲示する。  ・観覧車の挿絵を見て「1台に3人ずつ」乗っていて、それが「4台分」あることをおさえ、全部の子どもの人数を求める問題であることを確認させる。
展開	3 機関車に乗っている人数を求め、「～のいくつ分で何」の場面を式で表す。	T：機関車にはみんなで何人乗っていますか。	・機関車の挿絵を見て「1台に6人ずつ」乗っていて、それが「3台分」あることをおさえ、全部の子どもの人数を求める問題である





4 かけ算の式の読み方  
と書き方を知る。

T: ブロックを使って考えましょう。  
T: 子どものところにブロックをお  
きましょう。やってくれる人は  
手を挙げましょう。

T: どのように数えましたか。  
S:  $6 + 6 + 6 = 18$  です。

T: 1台に6人ずつの3台分で18人  
です。  
読みましょう。  
S: 1台に6人ずつの3台分で18人  
です。

T:  $6 \times 3 = 18$   
ろく かける さん は  
じゅうはち  
読みましょう。

S: ろく かける さん は  
じゅうはち

T: 記号はこう書きます。  
(AU: F-8 「記号を知る」)

ことを確認させる。

- 機関車に乗っている子ども  
の様子をブロックを並  
べて表すことにより、全  
部の人数を求め、言葉で  
表現させる。


- ブロックを並べながら「～  
のいくつ分は何です。」と  
いう表し方を確認させる。
- 「1つ分の大きさ」と「いく  
つ分」を確実に理解するこ  
とが大切であるため、ブロ  
ックの並べ方と対応づけ  
ながら、「～のいくつ分は  
何です。」と言えるように  
させる。

- 「6人ずつの3台分で、18  
人」のことを「 $6 \times 3 = 18$ 」  
と書き、「六かける三は十  
八」と読むこと、 $6 \times 3 =$   
18の6は「1つ分の数」、  
3は「いくつ分の数」、18  
は「全部の数」を表してい  
ることを、ブロックの並べ  
方とも対応づけながら確  
認させる。

- 1台に2人ずつ6台分ある  
ことを確認させる。

- ワークシートで練習させ  
る。



	 <p>5 いろいろな場面を かけ算の式に表す。</p>	<p>T：自転車に乗っている人数を同じように式に書きます。</p> <p>S：<math>2 \times 6 (=12)</math></p> <p>T：このように<math>6 \times 3</math>や<math>2 \times 6</math>のような計算を、かけ算と言います。 (AU F-6「新しい言い方を知る」)</p> <p>T：かけ算の式に書きましょう。</p>	
<p>まとめ</p>	<p>6 挿絵を見て、かけ算の式に表せる場面を見つけ、式に書く。</p>	<p>T：観覧車</p> <p>1 台に3人ずつの4台分で、12人です。</p> <p><math>3 \times 4 = 12</math></p> <p>このように書きます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに書き方の例をあげておく。</li> <li>・答えが出せない時は、ブロックを使ってもよいことにする。</li> </ul>

【教材・教具】ワークシート、絵カード、挿絵の拡大図

### ○評価の観点と方法

- ・活動中の児童の応答によって、操作活動を通して「～ずついくつ分」の分け方ができたかを評価する。
- ・ワークシートの記述から、乗法の意味を理解し、式に表すことができたかを評価する。
- ・操作活動でのやり取りやワークシートの記述から、乗法を学習する時に必要な表現を理解することができたかを評価する。